

## 健康都市連合日本支部第1回大会

### 講評

東京医科歯科大学大学院教授

WHO 健康都市研究協力センター所長

高野 健人 氏

講評させていただきます

いろいろと世界の健康都市を見ておりますが、今日ご報告をいただきました各都市とも、皆様方まさに同感だともおもいますが、大変特色を生かした意欲的な取り組みをなされています。これはもう、明らかに国際レベルを上回って、すばらしい取り組みであると思えます。

まず、平良市の伊志嶺市長ご報告です。

私は何回聞いても大変心を打たれるのですが、「ひと・まち・自然の健康都市」ということで、珊瑚礁の保全あるいは八重干瀬という世界にアピールできる財産をもとに、すばらしい事業を展開しております。

各市について、それぞれ3点ずつコメントさせていただきたいと思えます。

第一点は、WHO西太平洋事務局は、南太平洋の国々をたくさん持っております。こうした国々のお手本となる非常に良いモデルだと思います。

こうした国々が集まって、宣言をいたしました。その一つに「エコロジカルな健康は、われわれの誇りだ」という一項目があります。大変いい言葉だともおもいます。そしてこうしたお手本になるモデルだともおもいます。また、日本の国を広く考えて見ますと、北から、あるいはまた九州のほう、そして南西諸島まで、いろいろな文化の交流点があります。そういう意味で平良はまさに海のまほろばだと思います。そうした中で、産業としての観光、そして、ともすれば観光と環境、健康と産業というものは相反するものになりがちですが、これを単純な賛成・反対ではなく、住民と対話を続けながら、あるいは住民間のコンセンサスを得ながら進める、こうした点は大変印象深く伺いました。

二点目は、WHOとのつながりを大変大切にさせていただきまして、たとえばWHOの予算の補助で、こうしたエコツーリズム、インストラクターの事業もなされたとお伺いしておりますし、また、先ほどのお話の中では、WHOの協力のもとにアジアの国々との市長サミットを開催されて、情報交換をされてこられた。こうした点も、今までの活動として大変感慨深くお伺いをいたしました。

三点目は、こうした活動が、プロセスをゆっくり踏むことによって、決してトップダウンではなく、ゆっくりプロセスを踏むことによって、そのプロセス自体が社会教育事業となり、そのプロセス自体が人材育成のチャンスとなり、そのプロセス自体がそこで成熟していく文化を一人ひとりが共有できる、つまりプロセス自体に大変意味を持たれて進まれている点に私は特に感銘を受けました。

今後、こうした平良市のモデル、平良市は今後宮古島市になられるということで、まさにヘルシーアイランドということで、WHO西太平洋地域事務局でもヘルシーアイランドのプロジェクトにも力を入れていますので、貴重なモデルとしてこれからもこの地域でのリーダーとしての役割を果たされると期待しております。

二番目にご報告をいただきました、尾張旭市の谷口市長のお話も、大変感銘を深くするものでありました。

まずは、第一点目は、「ともに作る元気あふれる公園都市」ということで、外に出たくなるまち、住み続けたいくなるまち、寝たきりにさせないまち、こうしたものを中心にした健康都市宣言、これが見事に市のマスタープラン自体に組み込まれているんですね。これは非常に大事な点です。決してプラスアルファの事業をすることが健康都市ではないと思うんです。プラスアルファではなく、既に日本の自治体であれば相当先進的なものをいろいろなところでやっているわけです。そうした既存のものを効果的に体系化して、既存のものを取り込むことによって、今まで気づかなかったものに気づいたり、あるいは、ダブっているものはもっと効果的にできるかもしれませんし、相互に触発して相乗的相加的になるかもしれない。決して一回限り、あるいは何々プランがあるときだけ、あるいは、何とかというものをやりなさいといわれたとき、それに対して計画を作ってそして終わってしまう、ということではなく、マスタープランの中に生かされているという点が大変優れた点であると思ってお伺いをいたしておりました。

第二点目です。これもWHOのガイドラインで非常に重視した点ですが、専門のセクションを作ってくださいというふうをお願いしております。そして、それを設けていらっしゃるということです。これは、健康都市というと、健康セクションがやるのか都市セクションがやるのか、まあWHOだから健康セクションだろうということで、健康担当のどこかの課が担当する、それもついでには言わなくても併せて行うということになりますと、決して長続きしないということが、今までの過去の事例からわかっております。われわれ、学んだ教訓(レッスンズ・ラーント)という失敗例・成功例をたくさん集めておりますが、この中の失敗例に入ってしまうんです。それに対して尾張旭市の取り組みでは、市長のもとに、健康都市推進室という専門のセクションを作っておられる。これは、成功する原因の一つに大きくあげられておりますので、この点組織面において、学ぶ点が私自身にもありました。

三点目として、ウォーキングに非常に力を入れておられる点です。そして、これは単に健康づくりのために歩け歩けということではなく、歩くという人間が機械とかなんだとかそういうことではなく、人間のスケールで人間の身の丈でものを見る、人間の力、自分の力で歩くということを原点として、そこからハードをどう整えたらよいのか、あるいはソフトをどうつけていったらよいのか、まちづくりをどうすすめていくのか、そうした展開あるいは発展の過程をお伺いすることができて、私自身大変勉強となりました。

次に袋井市のお話をお伺いしました。地域健康活動の話をお伺いしました。

袋井市のお話をお伺いして、これは前市長のときから健康都市に取り組んでいたとおもいます。これは今日ご報告いただきましたどこの市でも同じだとおもいますが、改めて「継続は力なり」ということを深く感じたところです。

一点目は、ちょうど東海道五十三次のちょうど真ん中である、そして農業・商業・工業のバランスがよく、若いまちであるという有利な条件を、ほかの部分に向けるのではなく、健康に向けている点に感銘を受けました。

二点目は、ウォーキングをはじめ、貯筋運動であるとか、健康教室であるとか、検診、食育など、地道な地域密着型の例をお伺いしました。

三点目は、ここで私が大変驚きましたのは、それぞれの活動、事業が、コミュニティー拠点を持ってすすめていらっしゃるということです。コミュニティーごとにコミュニティー拠点を持っているということがうらやましいことであると思いました。私は、先月ですが、たまたま袋井市の学遊館のプールで泳ぐ機会がありましたが、あれは立派なコミュニティー拠点でありまして、前市長さんの学ぶ・遊ぶという理念にそって作られたんだと思いますが、一つ一つの拠点をもちことの大切さについて感じた次第です。

次に多治見市のお話をお伺いいたしまして、まず第一点目に大変すばらしいお考えだと思いましたのは、地域社会づくり、地域社会を作るということを基盤にそこから住民の健康を考えておられるということです。健康都市の展開にとって、地域社会というものがあくまでも基盤であるということが一番初めにお話になられたことを大変印象深く拝聴しました。

二点目は、世界とのつながりができたということ、そして、世界との繋がりの中で職員が生き生きとしてきたということをおっしゃってありました。これは、いろいろな自治体のなかには、若い職員が、しばしば、別に燃え尽きてしまうわけではないんでしょうけど、閉塞感を持っていると感じるようなことがあります。自分の仕事、毎日やっている保健医療であれば保健医療の仕事を世界の中で考えていく、世界の中で位置づけることの重要性、そうすると若い職員が生き生きしてくるんだということをご指摘されたんだと思っております。

三点目にデータベースがしっかりしていることに驚きました。これは岐阜大学の清水教授と一緒にやられていたということで、なるほどなと思ひまして、いい学者にめぐり合うということも発展の要因なんだなと思いました。

最後に市川市の話をお伺いしました。

第一点目は人口密度が非常に高く、都市化の条件も複雑で、難しい課題も多いという条件下にあるということ。そのなかでの包括的な取り組みであるということをお伺いしました。市川市は、アジアの中でも難しい課題に先進的にチャレンジしているモデル都市だと思います。そうした中で、ビジョンや基本コンセプトを明確にされている、人間を大切に、それから東京に向くのではなく自分の住んでいる所、地域を見直そうという、明確なメッセージのもとに、62課・260事業と言われましたでしょうか、そうした総合的・包括的な取り組みをされていることに大変感銘を受けました。

二点目は、それを支える条例が個別にあるということです。運動の盛り上がりや事業の展開などを、きちんとした条例を作ってそれを確実にするという事は、なかなかたやすくはないし、事例も多くはないと思います。それから、インフラを作るといふこととも関連しますが、条例というものも社会的インフラという意味で、あるいは健康インフラという言葉も最近をよく使われるようになりましたが、住民の健康のための社会基盤であります。こうした、条例を作って取り組みを確実にしているということは、さすがだと思いました。

それから三点目は、地域のネットワークを作って、特に住民参加の仕方、N G Oとの連携がシステム化されていることに感銘を受けました。このN G Oとの協働ということもW H Oが健康都市成功の理由の一つにあげていることで、大切なことだと思います。特に、市川市では、それを持続的に発展させるべく、市民税の1%をそれに振り向ける、そしてその決定を市民に任せる、まさにタックスペイヤーに対して責任を持つという近代的な行政の姿であると思いました。こうした制度にうらうちされた健康都市の展開は、持続性(サスティナビリティ)を組み込んだ推進体制であり、先進的な事例として、是非、世界各国の健康都市へと発信していただきたいと思いました。

さらに、個別の一つ一つの、本当に小さな活動にいたるまで、その小さな活動ひとつひとつを、大きな枠組みの中で、それらを活かしながら包括的な体系としている。そして市としての明快なビジョンのもとに、住民とともに歩む。決して住民を単に導くということではなくて、住民を誘導するというのではなくて、住民と一緒にその方向に向かって歩いていく、そしてそのコンセプトの中心が健康であり、その体系が健康都市であるということ、まさに健康都市の理念そのものだなと思っておうかがいをしていたわけです。

時間があまりありませんので、もっとと思いましたが、3点ずつ簡単にコメントさせていただきました。

どうもありがとうございました。

(司会者)

高野先生どうもありがとうございました。

会場の皆様長時間にわたりお付き合い、本当にありがとうございました。

第一回健康都市連合日本支部大会をこれで終了いたしたいと思います。どうもありがとうございました。

また、自治体の皆様、どうぞ近隣市お誘い併せのうえ日本支部にご加盟くださいますようお願い申し上げます。

休憩の時間にもお知らせいたしましたが、東山画伯の展示が地下1階で行われております。どうぞお立ち寄りくださいませ。